

# 第4期守山市スポーツ推進計画策定に係る基本的事項

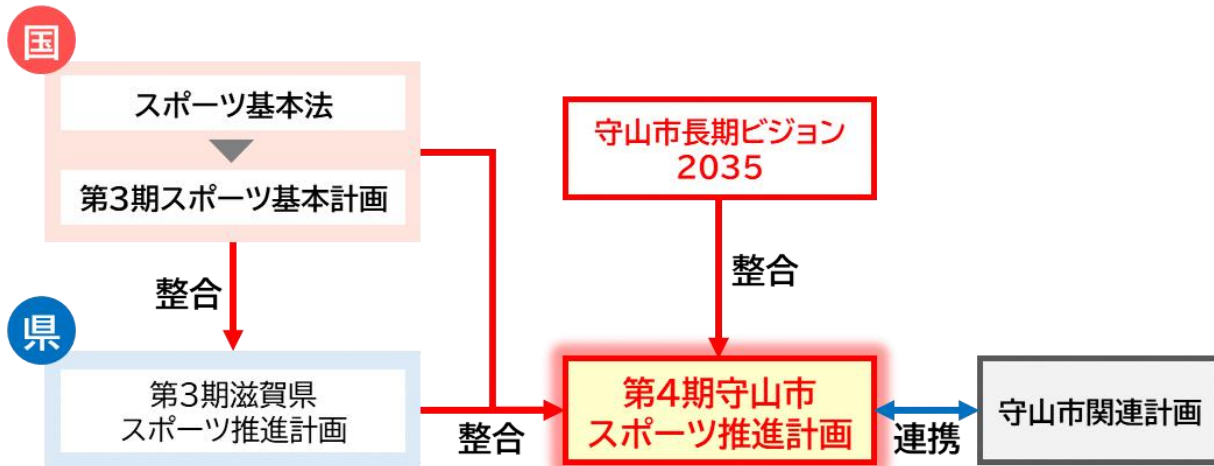
第3期計画からの変更事項

## 計画策定の趣旨

現在の第3期守山市スポーツ推進計画は、令和8年度をもって計画期間の最終年度を迎えます。このため、これまでのスポーツ推進における成果と課題を整理するとともに、令和7年度に開催された「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」のレガシーの承継および国の関連計画等を踏まえ、第4期守山市スポーツ推進計画を策定するものです。

## 計画の位置づけ

スポーツ基本法第10条に基づく計画で、国の「スポーツ基本計画」、県の「滋賀県スポーツ推進計画」を踏まえるとともに、本市の総合計画と整合を図るとともに、関連計画との連携を図り、本市のスポーツの基本的方向性を示すもの。



## 計画期間 令和9年度から令和14年度まで(6年間)

第5期以降の計画については、国の計画策定後に見直し作業へ着手できるように、計画期間を5年間から6年間へ変更します。また、第4期計画については、国の基本計画の策定状況を踏まえ、令和8年度に策定することとします。

年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
守山市	第3期守山市スポーツ推進計画 〔令和4年度～令和8年度〕					第4期守山市スポーツ推進計画 〔令和9年度～令和14年度〕					
国	第3期スポーツ基本計画 〔令和4年度～令和8年度〕					(予定)第4期スポーツ基本計画 〔令和9年度～令和13年度〕					
県	第3期滋賀県スポーツ基本計画 〔令和5年度～令和9年度〕					(予定)第3期滋賀県スポーツ基本計画 〔令和10年度～令和14年度〕					

## スポーツの定義 第3期計画の定義を踏襲

勝敗や記録を競う競技スポーツだけでなく、体力づくりのためのトレーニングや健康づくりのための徒歩や自転車による通勤、子ども同士の遊び、学校での体育活動、体操やヨガなどの身体活動、自然に親しむ野外活動なども含めて、本計画ではスポーツとして定義することとします。

バーチャルスポーツ・eスポーツの取り扱いについては、令和7年改正のスポーツ基本法において、情報通信技術を活用したスポーツ機会の充実に関する規定が新設されたことを踏まえ、国や県の動向を注視しつつ、デジタル技術を活かしたスポーツ推進の在り方について継続的に検討・研究していきます。

## スポーツ基本法(R7改正):基本的施策

### ●発達段階に応じたスポーツの推進

幼児、児童、生徒、学生等が発達段階に応じて継続的に多様なスポーツに親しむことができる機会の確保

### ●部活動の地域展開等

中学校等の生徒が地域において継続的に多様なスポーツに親しむことができる機会の確保

### ●気候変動への対応についての留意

熱中症対策等のスポーツの実施のための環境の整備や、持続可能なスポーツの機会確保のためのスポーツの場における環境に配慮した取組の推進

### ●デジタル技術の活用等(スポーツDX、eスポーツ)

スポーツの推進に寄与する情報通信技術の活用とそのための施策の推進、スポーツを行う者の心身の健康の保持増進や安全確保に配慮したeスポーツの充実

### ●まちづくりと一体的なスポーツ施設の整備等(スポーツコンプレックス)

まちづくりと一体的なスポーツ施設の整備・活用による、地域経済の活性化や地域内外の交流の促進

### ●多様な需要に応じたスポーツを楽しむ機会等の確保(スポーツホスピタリティ)

●スポーツホスピタリティ(スポーツを楽しむ機会等に関連する良質かつ付加価値の高いサービスの提供)による、多様なスポーツを楽しむ機会の確保と地域経済の活性化等

### ●スポーツの公正及び公平の確保(スポーツ・インテグリティの確保)

スポーツにおける「暴力」、「パワーハラスメント」、「セクシュアルハラスメント」、「盗撮」、「(インターネット上の)誹謗中傷」等の防止や、スポーツ団体のガバナンスの確保等

## スポーツ基本計画

### 【第3期計画(R4年度～8年度)の視点】

#### ●スポーツを「つくる / はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す

#### ●スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

#### ●スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済、地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会の実現し、機運を醸成

### 【第4期計画(R9年度～)策定検討段階】

※令和8年3月18日スポーツ基本計画部会資料抜粋

#### ●基本計画のねらい

スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く(仮)

#### ●基本計画策定の考え方

①スポーツを通じた社会課題の解決や、自然・社会環境の変化に対応した環境づくりを目指し、目標等を設定

②幼児期から高齢期まで生涯を見通したウェルビーイングの実現と、社会の成長・発展に貢献する視点を重視

③ウェルビーイングを土台としたハイパフォーマンスの追求と、その成果・知見を社会に還元していく視点を重視

④幅広い分野の関係者が共感でき、目標実現に必要な投資や人の流れを生み出す視点を重視

#### ●第4期重点課題(仮)

①国民のスポーツ実施促進と、健康長寿や経済成長等実現への貢献

②ハイパフォーマンスの追求とアスリート等を取り巻く環境整備を通じた社会への還元

③スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献

## 滋賀県スポーツ推進計画

### 【第3期計画(R4年度～8年度)の視点】

#### 1 人

・誰もが自分に合ったスポーツを気軽に楽しめる環境をつくる

・子どもが体を動かす楽しさを実感し、継続して取り組める環境をつくる

・障害のある人がスポーツを気軽に楽しめる環境をつくる

#### 2 地域

・多様なスポーツ関係者が連携・協働し、地域の活性化を図る

・地域資源を生かしたスポーツを推進し、地域の活性化につなげる

#### 3 大規模大会

・選手育成や指導体制充実等により、競技力の向上と競技者の拡大を図る

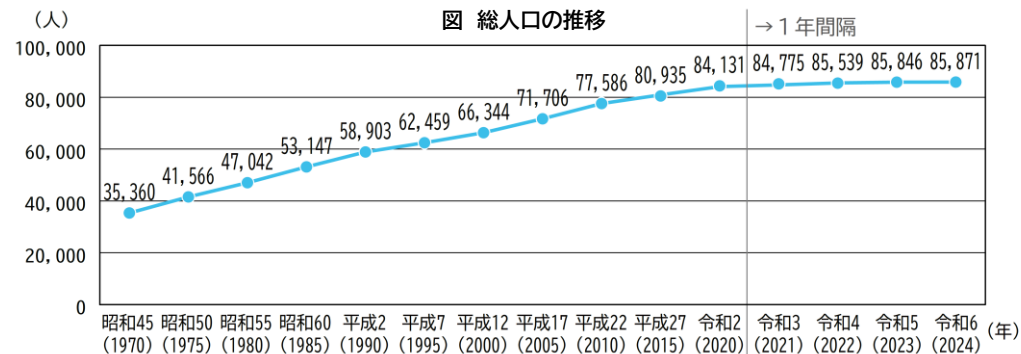
・わたSHIGA輝く国スポ・障スポ終了後の競技水準の定着のため、取組を継続

・大会の成果を生かして、滋賀らしいスポーツの在り方を創出し、未来へ継承する。

国等の動向を踏まえて、必要な事項を本市の第4期計画に反映させる

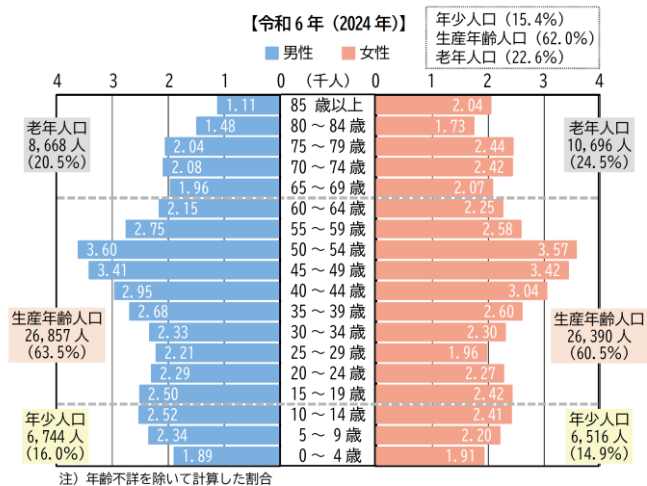
## 高齢化の進展

守山市の人口は、市制施行の昭和45年(1970年)から新たな住宅・宅地開発による人口流入が増加し、京阪神都市圏のベッドタウンとして現在も増加傾向にあり、令和6年9月末現在の総人口は85,781人となっています。市の総人口は右肩上がりが増加していましたが、令和2年以降、鈍化傾向にあります。



資料：住民基本台帳（市市民課）/ 各年9月30日現在

令和6年9月末現在の人口構成をみると、男女ともに45歳～54歳が多く、特に第2次ベビーブーム世代を含む年齢層が5歳階級別では最大人数を占め、令和22年においては、当該年齢層が65歳以上に到達し、老年人口比率を大きく引き下げる要因となるため、今後急速に高齢化が進むと予測されている



注) 年齢不詳を除いて計算した割合

資料：住民基本台帳（市市民課）/ 9月30日現在

図 人口構成

## スポーツへの関わり

市民意識調査の結果、スポーツへの関わり方(「する」「みる」「ささえる」)のうち、「する」については全国平均より低い一方で、「ささえる」活動は全国を大きく上回っていることが明らかになった。

スポーツを  
する

運動・スポーツ実施率 (週1回以上)	守山市	全国	目標値
	44.5%	51.7%	65%

スポーツを  
みる

スポーツ観戦(現地)	守山市	全国
	22.8%	24.0%

スポーツを  
ささえる

運動・スポーツ支える 活動実施率	守山市	全国
	19.8%	9.2%

※上記はR7市民意識調査(守山市実施)およびR7スポーツの実施等に関する世論調査(国実施)との比較

## 第3期計画におけるトピックス

令和4年度	びわこ成蹊スポーツ大学協定締結
令和7年度	東レアローズ株式会社東レアローズバレーボールクラブ滋賀協定締結
	わたSHIGA輝く国スポ・障スポ開催
	立入公園整備完了
令和8年度	もりやまエコパーク整備完了
	全国高等学校総合体育大会(インターハイ)

# 第4期守山市スポーツ推進計画策定の施策体系の見直し

**体系図** 第4期計画においては、第3期計画の基本方針である5つの柱を踏まえつつ、「**する**」「**みる**」「**ささえる**」の視点を主軸として、体系図を再構築

## 基本理念

「誰もが「ど」でも「いつ」までも「レ」ッツスポーツ！  
 ～『健康元気なまち』をめざして～

【第4期追加】 3つの関わり		基本方針			施策方針
		第3期基本方針5つの柱			
<b>する(柱1・2・3・4)</b> スポーツを	柱1 ライフステージに応じたスポーツの推進	年齢や障害の有無、ライフスタイルに関わらず、誰もが誰とでも気軽に運動やスポーツに取り組み、体力の向上や健康増進を図ります。	子どものスポーツの推進		
			成人のスポーツの推進		
	柱2 スポーツができる場の確保	もりやまエコパーク・立入公園の整備や既存施設の利活用、また、子ども達の遊び場の確保、自宅での運動等どこでもスポーツや運動ができる取り組みを推進します。	高齢者のスポーツの推進		
			障害者のスポーツの推進		
	<b>ささえる(柱3・4・5)</b> スポーツを	柱3 スポーツを推進する人材の育成	指導者やスポーツを「ささえる」人材の育成を図り、国スポ・障スポ大会の種目を中心に本市の象徴となるアスリートを育成し、スポーツ活動の活性化につなげます。	スポーツ環境の整備・充実	
遊び場の確保					
自宅での運動の推進					
<b>みる(柱4・5)</b> スポーツを	柱4 情報提供・発信の充実	広報、HP、SNS等を活用して情報提供を図るとともに、市HPの充実や市内出身のアスリートとの連携を図り、市民のスポーツへの関心を高めます。	指導者の育成		
			スポーツを「ささえる」活動の推進		
	柱5 スポーツによるまちの活性化	スポーツ関係団体や大学等との連携、地域スポーツの推進、スポーツと観光の連携を図り、いつまでもスポーツができる取り組みやまちの活性化を推進します。	アスリートの育成		
			情報提供・発信の充実		
			スポーツ関係団体との協力・連携		
			地域スポーツの推進		
			スポーツツーリズムの推進		

# 第4期守山市スポーツ推進計画策定に係る課題抽出および評価

3つの関わり		第3期基本方針5つの柱	市民調査結果および策定協議会における課題抽出等	評価(案)	評価内容(案)	
<b>する(柱1・2・3・4)</b> スポーツを	<b>支える(柱3・4・5)</b> スポーツを	柱1	<b>ライフステージに応じたスポーツの推進</b> ライフステージに応じたスポーツの推進	<b>働く世代のスポーツ実施率向上</b> ・市民意識調査の結果、前回調査時と比較し、全体的にスポーツ実施率が低下 ・特に働く世代の低下が顕著で、30代が最も低い結果となった。 ・子育て世代向けのスポーツイベントでは参加者数は増加傾向にあり、スポーツに触れる機会は確保されているが、継続的に取り組める仕組みづくりが不足している。	B	親子で参加できるスポーツイベント(ファミリーマラソンやファミリーウォークラリー)、高齢者向けイベント(歩こう会)については、参加者数が増加傾向にあり、一定の成果が認められる。また、市内小中学校での障害者スポーツの体験機会の提供などを通じて、共生社会の視点に立ったスポーツの普及も着実に進んでいる。一方で、年齢層やライフステージごとの取組は一定程度進展しているものの、市全体としてのスポーツ実施率は目標値を大きく下回っている。
		柱2	<b>スポーツができる場の確保</b> スポーツができる場の確保	<b>スポーツ・運動施設の利活用</b> ・もりやまエコパーク・立入公園の整備が完了し、ハード面は一定充実が図れている ・整備した施設をより多くの市民が活用できるよう、情報発信・利用促進等のソフト面の充実が必要	A	スポーツ施設や公園の整備等により、市内におけるスポーツ実施環境は一定確保されている。既存施設の老朽化が進んでいるため、安心安全に施設利用ができるよう改修・修繕等を計画に実施していく必要がある。
		柱3	<b>スポーツを推進する人材の育成</b> スポーツを推進する人材の育成	<b>支える人材の担い手確保</b> ・スポーツを支える団体の担い手不足が顕在化 ・支える側の魅力発信が十分でなく、担い手の裾野は拡大していない ・スポーツイベント実施の際に、「する人」だけでなく、「支える人」の発掘・育成にも活用する必要がある。	B	各種スポーツイベントや地域活動を支える団体・指導者の存在により、現状のスポーツ推進体制は一定程度維持されている。一方で、担い手の高齢化や固定化が課題となっており、今後の継続的な運営に向けて人材の確保・育成が急務であり、多様な主体が支える活動に参画促進をする仕組みづくりが必要である。
		柱4	<b>情報提供・発信の充実</b> 情報提供・発信の充実	<b>情報発信の充実</b> ・広報もりやま、市HP、公式LINE、インスタグラム等を活用しているが、市内の各団体スポーツイベント情報を一元的に取得できるような仕組みも必要。	B	各種媒体を活用した情報発信に取り組んでいるが、必要な情報が各ターゲット層に必ずしも十分に届いていない可能性がある。また、これまでは「する」の視点をメインで情報発信をしていたが、「みる」「ささえる」の視点でも必要な情報発信をしていく。
		柱5	<b>スポーツによるまちの活性化</b> スポーツによるまちの活性化	<b>各種連携によるスポーツ振興体制の構築・継続</b> ・国スポ・障スポを通じて、多くの企業・団体がスポーツに価値を見出していることが明確になった。 ・企業・団体の持つ強みを活かしてスポーツ振興施策を展開できると良い ・スポーツイベントを支える人材および人材育成として、大学との連携も重要	B	関係団体との協定締結等により、スポーツ振興に向けた連携体制が構築されている。一方で、スポーツイベントを通じた交流人口の拡大や地域経済への波及効果という観点では、スポーツツーリズムの取組が十分とは言えない状況にある。

# 守山市スポーツ推進計画策定の見直しについて

## 第3期守山市スポーツ推進計画

## 第4期守山市スポーツ推進計画

第3期基本方針5つの柱		施策方針	施策展開
柱1	ライフステージに応じたスポーツの推進 <b>評価：B</b>	子どものスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの推進</li> <li>・キッズスクールの充実</li> <li>・トップアスリートやパラアスリートとの交流</li> <li>・スポーツ少年団の活動支援</li> <li>・親子で参加できるスポーツイベントの開催</li> <li>・元教員による体育科授業力向上事業の実施</li> <li>・外部指導者の活用による運動部活動の活性化</li> </ul>
		成人のスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子で参加できるスポーツイベントの開催</li> <li>・健康体操や簡単なトレーニングの紹介</li> <li>・日常における自転車利用の提案</li> <li>・市内ウォーキングコースの紹介</li> <li>・健康増進アプリ「BIWA-TEKU」の活用</li> <li>・健康診断の促進</li> <li>・体力測定の実施</li> </ul>
		高齢者のスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守山百歳体操や守山健康のび体操などの紹介</li> <li>・市内ウォーキングコースの紹介</li> <li>・高齢者も気軽に参加できるスポーツイベントの充実</li> <li>・高齢者スポーツ大会の開催支援</li> <li>・グラウンドゴルフや還暦野球などのシニアスポーツの推進</li> </ul>
		障害者のスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者も気軽に参加できるイベントの充実</li> <li>・体育施設の利用支援</li> <li>・パラスポーツ大会の開催支援</li> <li>・小学校でのパラスポーツの体験会の実施</li> </ul>
柱2	スポーツができる場の確保 <b>評価：A</b>	スポーツ環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共予約システムの導入</li> <li>・環境学習都市宣言記念公園、立入公園の施設整備</li> <li>・学校体育施設の開放</li> <li>・民間体育施設の活用に向けた連携の検討</li> </ul>
		遊び場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民運動公園スポーツ広場の開放</li> <li>・ボール遊び公園マップの作成</li> <li>・学校グラウンドの利活用検討</li> <li>・自然体験などの環境学習の推進</li> </ul>
		自宅での運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操や簡単なトレーニングの紹介</li> <li>・ラジオ体操やストレッチの促進</li> <li>・生活の中での運動習慣の意識づけ</li> </ul>
柱3	スポーツを推進する人材の育成 <b>評価：B</b>	指導者の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者研修会の実施</li> <li>・トップアスリートやパラアスリートとの交流</li> </ul>
		スポーツを「ささえる」活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の確保</li> <li>・スポーツボランティアの確保</li> <li>・県内外の大学生等による「ささえる」活動の推進</li> </ul>
柱4	情報提供・発信の充実 <b>評価：B</b>	アスリートの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップアスリートやパラアスリートによるスポーツ体験教室(国スポ・障スポ大会開催種目)の実施</li> <li>・市ゆかりのアスリートとの交流</li> <li>・スポーツ顕彰の実施や激励金の交付</li> </ul>
		情報提供・発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページでの市内スポーツイベントの情報発信</li> <li>・SNSによる情報発信</li> <li>・市ゆかりのアスリートの紹介</li> </ul>
柱5	スポーツによるまちの活性化 <b>評価：B</b>	スポーツ関係団体との協力・連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツ等の観戦機会の拡充</li> <li>・スポーツ関係団体や大学と連携したスポーツイベントの実施</li> <li>・県内の大学や民間企業など連携機関の拡充検討</li> </ul>
		地域スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブへの活動支援</li> <li>・自治会でのスポーツ活動の推進</li> <li>・地域スポーツ活動の情報発信</li> </ul>
		スポーツツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模スポーツ大会の誘致・開催支援</li> <li>・スポーツ合宿の受け入れ検討</li> </ul>

## 第4期計画策定の視点

①「する」「みる」「ささえる」視点での体系化

②上位計画等の整合

③課題等への対応

④国スポレガシーの承継

### 国スポレガシーについて…

子どもたちによる応援活動、企業・団体による開催支援、多くのボランティアの参画等、世代や立場を超えた協働が広がり、地域全体が一体となって大会を作り上げ・支えてきた。こうした多様な形でのスポーツへの関わりを今後も継続し、スポーツを通じたつながりを地域に根付かせていくことが国スポのレガシーとなる。



第4期計画における施策展開等の新設・削除・重点等を整理

第3期守山市スポーツ推進計画策定の基礎データである「守山市すこやかまちづくり行動戦略に関する市民アンケート調査」と第4期策定の基礎データとなる「守山市のスポーツに関する市民意識調査」の比較

### 守山市すこやかまちづくり行動戦略に関する市民アンケート調査

R2実施アンケート

対象：15歳以上の市民2,000人(無作為抽出)

回答数：773

設問：過去1年間の中でどの程度、運動やスポーツ(30分以上、身体を動かす運動)を行っていますか。

スポーツ・運動実施率 (週1回以上)	20歳以上
	54.6%

年齢層	対象人数	週1回以上	割合
20～29歳	48人	28人	58.3%
30～39歳	73人	39人	53.4%
40～49歳	138人	68人	49.2%
50～59歳	108人	52人	48.1%
60～69歳	142人	92人	64.7%
70～79歳	143人	109人	76.2%
80歳以上	71人	34人	47.8%

本調査において、10代(15歳～19歳)を含む全体の週1回以上の運動実施率は59.9%

### 守山市のスポーツに関する市民意識調査

R8実施アンケート

対象：18歳以上の市民2,000人(無作為抽出)

回答数：789

設問：過去1年間で運動やスポーツをどの程度実施されましたか。

運動・スポーツ実施率 (週1回以上)	守山市	全国	目標値
	44.5%	51.7%	65%

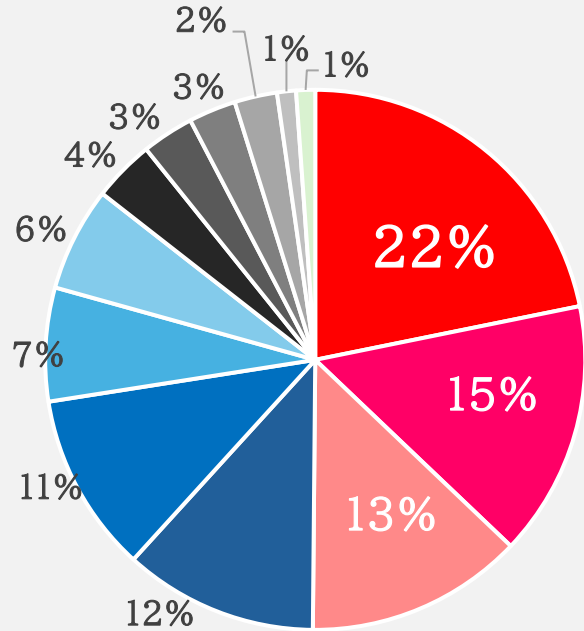
年齢層	対象人数	週1回以上	割合	低下率
18～29歳	53人	23人	43.4%	▲25.6%
30～39歳	84人	24人	28.6%	▲46.4%
40～49歳	98人	39人	39.8%	▲19.1%
50～59歳	100人	34人	34.0%	▲29.3%
60～69歳	141人	66人	46.8%	▲27.7%
70～79歳	165人	89人	53.9%	▲29.3%
80歳以上	147人	76人	51.7%	8.2%

働き盛り世代・子育て世代では運動習慣が全体的に低く、特に30代で大きく低下している。また、70代においても実施率の下げ幅が大きい。

比較

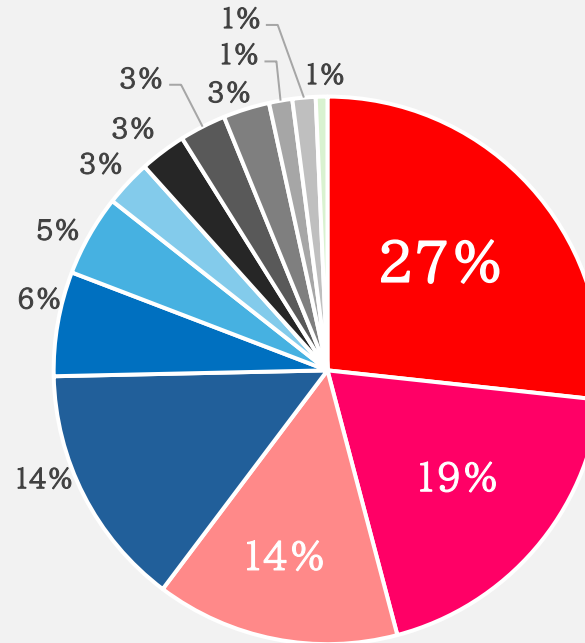
運動やスポーツをあまり行っていない最も大きな理由(運動・スポーツ実施頻度:週1回未満回答者対象)

全世代



- 生活や仕事で体を動かしているから
- 特に理由はない
- 仕事や家事が忙しいから
- 年をとったから
- 面倒くさいから
- 病気やけがをしているから
- 子どもに手がかかるから
- お金に余裕がないから
- 場所や施設がないから
- 運動・スポーツが嫌いだから
- 仲間がいないから
- 運動・スポーツ以上に大切なことがあるから
- わからない

30代~50代

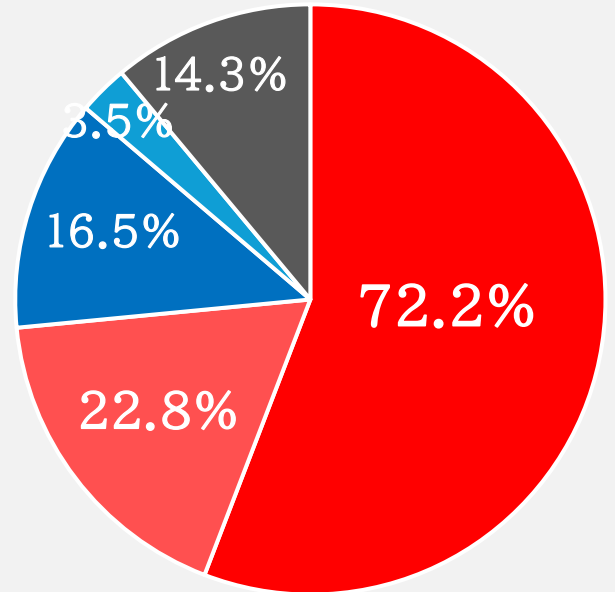


- 生活や仕事で体を動かしているから
- 仕事や家事が忙しいから
- 面倒くさいから
- 子どもに手がかかるから
- 特に理由はない
- お金に余裕がないから
- 病気やけがをしているから
- 場所や施設がないから
- 運動・スポーツが嫌いだから
- 仲間がいないから
- わからない
- 運動・スポーツ以上に大切なことがあるから
- 年をとったから

週1回未満しか運動・スポーツを行わない回答者のうち、「生活や仕事で体を動かしている」と答えた人を身体活動として含めて整理すると、**約70%**は日常的に何らかの形で体を動かしていることになる。一方で、残る**約30%**は日常的な身体活動も不足しており、この層への働きかけが重要である。

スポーツ観戦(現地)	守山市	全国
	22.8%	24.0%

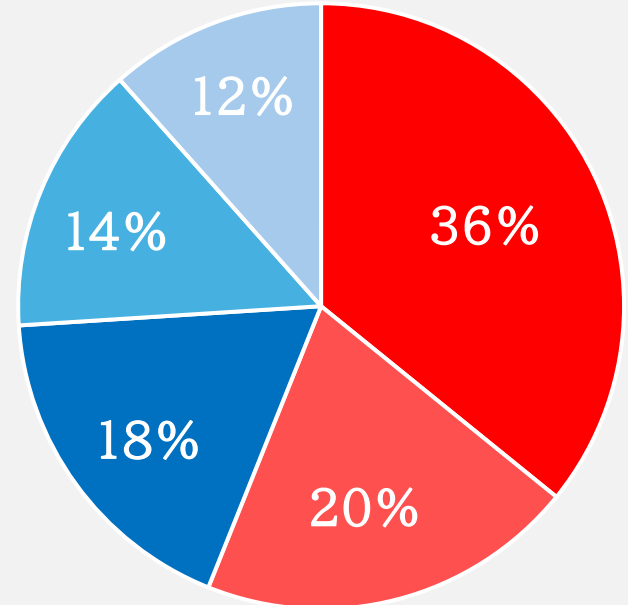
設問:この1年間にスポーツ競技を観戦したことがあれば、どのような方法でしたか。



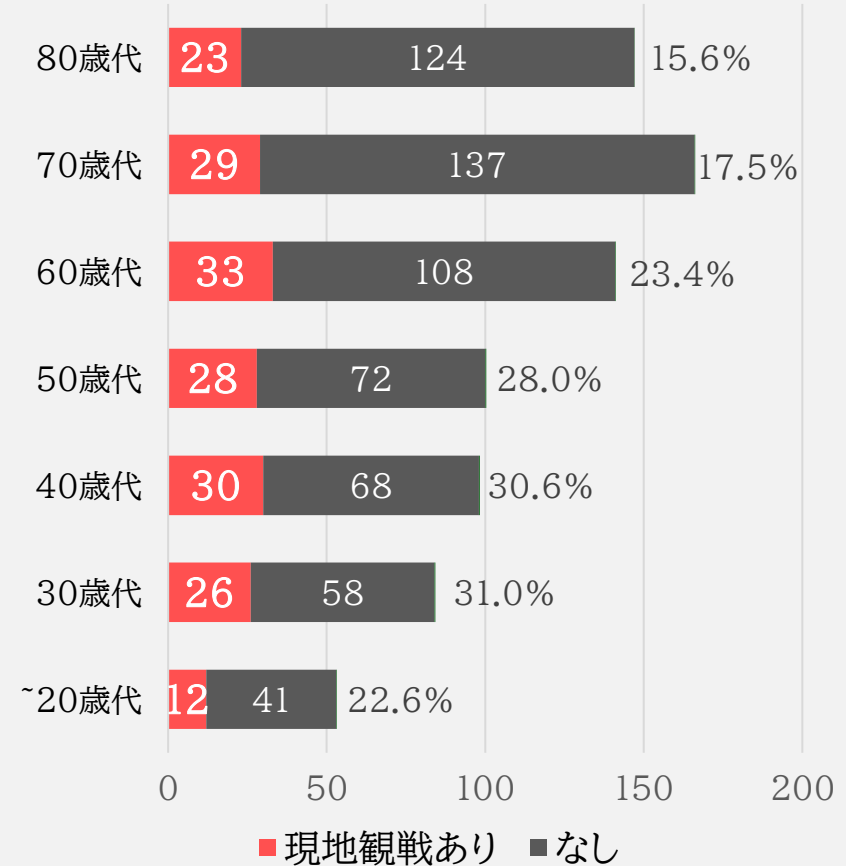
- テレビ放送
- 競技会場(現地観戦)
- 動画配信サービス
- ラジオ放送
- 観戦を行っていない



この1年間に現地観戦したことがある人の頻度および年齢階層別割合



- 年に1~3日程度
- 月に1~3日程度
- 週に1~2日程度
- 3か月に1日~3日程度
- 週に3日以上

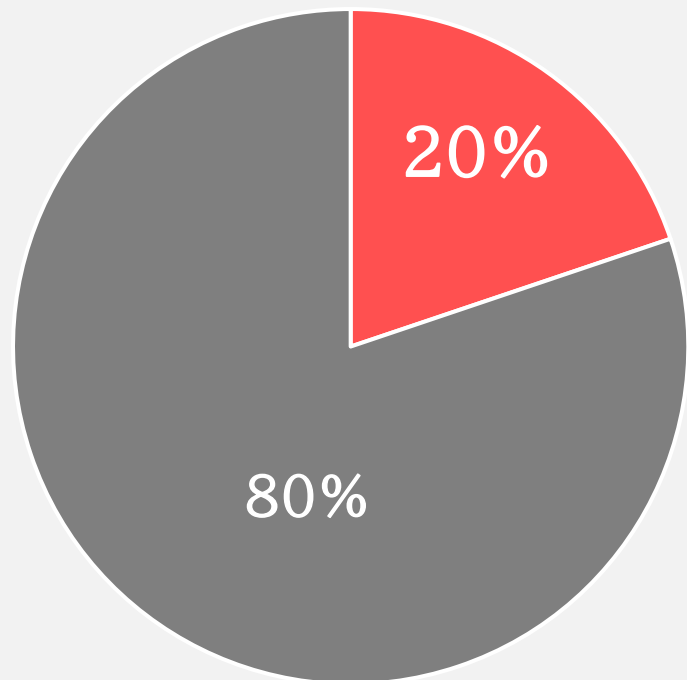


※複数回答形式のため、割合の算出に用いる分母は「回答者数」になるため、合計が100%を超えています。

本調査の対象者のうち、現地観戦をしている割合は**約23%**となり、年齢階層別に見ると、30代が最も観戦割合が高い一方で、40代以降は現地観戦の割合が徐々に低下している

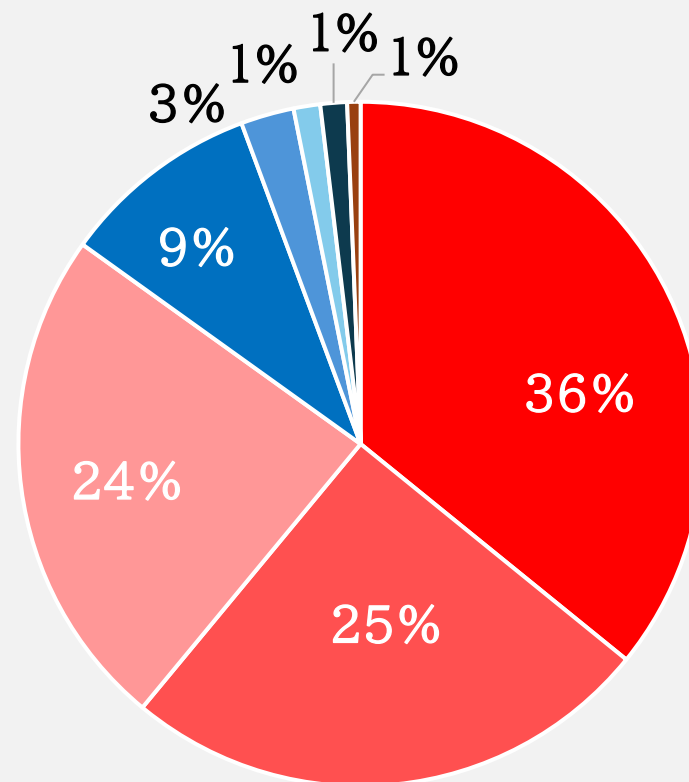
守山市	全国
19.8%	9.2%

設問:この1年間に「運動やスポーツを支える活動」を行いましたか。



■ 行っている ■ 行っていない

支える  
活動内訳



- スポーツクラブ・団体の運営や補助
- 自身やお子様が所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動
- 大会・イベントの運営や補助
- 運動・スポーツの指導
- スポーツの審判
- トレーナー
- スポーツ団体や選手への寄付・クラウドファンディング等への参加
- スポーツ施設の管理の手伝い

本調査の対象者のうち、「支える活動」を行っている割合は約**20%**と回答しており、活動内容としては、「スポーツクラブ・団体の運営や補助」「自身やお子様が所属するスポーツ団体やクラブでの補助的な活動」で約60%となった。